

Amir Tsarfati 氏 中東アップデート 2017年 3月 10日公開  
プリムの祭り・ネタニヤフ首相ロシア訪問

エルサレムより、こんばんは。アミール・トサルファティです。これから中東に関するアップデートをお伝えします。今はもう、外が暗くて見えませんが、現在私はエルサレムの城壁の側にいます。ここ 24 時間の間に、とても重要なことがいくつか起こったので、お伝えする必要を感じました。それから、現在ヨーロッパ人とトルコに関して、欧州で進行していることについてもご説明しようと思います。

その前にお話ししたいのは、今日からプリムの祭りが始まりました。プリムというのは、ペルシャのアハシュエロス王の時代に、ハマんと、ユダヤ人を殲滅させようとする者たちの企みから、ユダヤ民族が勝利したことを祝う祭日です。当時アハシュエロス王は、はるかインドからスーダン（クシュ）までの全土を統治していました。とても面白いのは、当時ペルシャは巨大帝国だったのですが、それだけ大きな帝国の中でも、人々の間で問題といえば、「どうすればユダヤ人を消し去られるか？」というものでした。ここに隠されている霊的戦いがどれほどのものか、よくお分かりいただけるでしょう。なぜこの話をするのかというと、これはユダヤ人のハロウィンとしても知られ、子どもたちは仮装してお祝いします。それぞれが各自のファンタジーの世界や、好きなものに仮装して、学校に行くのです。これらは良いことですが、それでも、お祝いの意味をよく考えてみると、それは結構悲しいものなのです。私たちがお祝いする唯一の理由は、悪が、私たちが絶滅しようとするのを止めたことです。これは何かすごいことが起こったからとか、私たちが何かを創り上げたことのお祝いではないのです。私たちは、ユダヤ人に敵対する企みを、どうにか止めることが出来た。ユダヤ民族を絶滅させる計画を止めたことです。喜ぶには、何と悲しい理由でしょうか。毎年この時期、シナゴグで「エステル記」が読み上げられますが、その 9 章にはこう書かれています。

- 1 **第十二の月、すなわちアダルの月の十三日、この日に王の命令とその法令が実施された。**  
この日に、ユダヤ人の敵がユダヤ人を征服しようとして望んでいたのに、それが一変して、ユダヤ人たちが自分たちを憎む者たちを征服することとなった。
- 2 **その日、ユダヤ人が自分たちに害を加えようとする者たちを殺そうと、アハシュエロス王のすべての州にある自分たちの町々で集まったが、だれもユダヤ人に抵抗する者はいなかった。…**

(エステル記 9:1~2)

ということです。そして、これら全ての結果どうなったかが 10 章に書かれています。

- 1 **後に、アハシュエロス王は、本土と海の島々に苦役を課した。**
- 2 **彼の権威と勇気によるすべての功績と、王に重んじられたモルデカイの偉大さについての詳細とは、メディアとペルシャの王の年代記の書にしるされているではないか。**
- 3 **それはユダヤ人モルデカイが、アハシュエロス王の次に位し、ユダヤ人の中でも大いなる者であり、彼の多くの同胞たちに敬愛され、自分の民の幸福を求め、自分の全民族に平和を語ったからである。**

(エステル記 10:1~3)

そして、それに関して聖書は、エステル記 9:22 でこう告げています。

22 **自分たちの敵を除いて休みを得た日、悲しみが喜びに、喪の日が祝日になった月として、祝宴と喜びの日、互いにごちそうを贈り、貧しい者に贈り物をする日と定めるためであった。**

(エステル記 9:22)

とても興味深いのは、私たちが祝っているのは、ユダヤ人に対して企てられていた計画が、潰された事なのです。でもこれが面白いことに、昨日、イスラエルの首相がモスクワへ飛び、プーチン大統領に、これについて話したのです。

ネタニヤフ首相が昨日プーチン大統領を訪問しました。首相は全カメラの前でプーチンに、基本的にこのような事を言いました。

「ペルシャ（イラン）に再びユダヤ人を絶滅するようなことはさせない。」

別の言い方をすれば、基本的に

「あなたがたがあの時にしたことは、今後は起こらない。」

ネタニヤフがプーチンに伝えているのは、

「イスラエルは自分たちの身の危険を感じた時には、行動に出る。」

ということです。面白いのは、エステル記 8:11 で、アハシュエロス王はユダヤ人たちに約束したことが書かれています。

11 **その中で王は、どこの町にいるユダヤ人にも、自分たちのいのちを守るために集まって、彼らを襲う民や州の軍隊を、子どもも女たちも含めて残らず根絶やしにし、殺害し、滅ぼすことを許し、また、彼らの家財をかすめ奪うことも許した。**

(エステル記 8:11)

といっても、もちろん我々はこんなことはしませんでしたが、要は、王がユダヤ人に、自分たちを破滅させようと企てる者に対して立ち向かい、先制攻撃を仕掛けることを許可したのです。先制攻撃とはつまり、相手が我々を破滅するまで待たない、私たちはその前に行動に出る、ということです。ユダヤ人捕囚中、異邦人の王の支配下であった時にこのようなことがあったのなら、自分達の独立国家に住んでいる現代のユダヤ人達、我々の政府、我々の軍隊を所有する私たちがそれを行う権利は、どれほどでしょうか。ネタニヤフが言おうとしていたのは、我々を破滅しようと攻撃をしかける、今回はイラン＝古代のペルシャに対して、「我々はそれを容認しない」ということです。

またとても重要なのは、ここ数か月の間に私たちが探知したのは、イランが何千人もの兵士を送り込んだ事実を除いても、——まさにイラン兵士はシリアの地に入っていて、シリアの様子を探ると、我々の諜報部の偵察装置からは、アラブ語以上にファルシー語（イランの言語）の方が多く聞こえてくるのです。面白いのは、イランが、タルシシュに常設の海軍基地建設を計画していることが分かったのです。ロシアの基地とさほど離れていない場所に、です。そして我々は、世界がシリア和平に合意するのを待たず、プーチンに——ところで、今はプーチンが中東の大家です。オバマがアメリカの外交政策を完全に抹殺して以来、ロシアが支配しているのです——私たちは将来的にシリアと合意できそうな境界線を設け、その上でイランがシリアに常駐することは認めないと伝えたのです。ちなみに、イランはそれだけでは

なく、他の多くの場所でも常駐しようとしています。なぜかと言えば、イランの目的はペルシャからイラク～シリアを通して地中海までをシーア派で貫く事ですから。イラクはすでに、ほぼ、シーア派で占められています。そして我々は、イランの地中海への接近を許可しないだけでなく、イラン政権のこうした計画を防ごうとしているのです。イランは最近、さらに複数の弾道ミサイル実験を行っています。イランは核プログラムを守るために、S-300 対航空機システムを購入しました。イランはイエメン、レバノンでさらに多くのテロリストを訓練し、シリアでも人々を訓練しています。イランは世界最大のテロ国家なのです。

さて、つぎに面白いことですが、——私はつい先日、元イスラエル諜報機関のトップと話をしたのですが、その時にとっても興味深いことを聞きました。イスラエル諜報部員は、朝起きてから夜寝るまでの間、二つの大きな頭痛を抱えるのだそうです。頭痛の一つ目は、イラン。もう一つの頭痛は、ロシアとかシリアだと言うのかと私は思ったのですが、彼はトルコだということです。私はびっくりして、思ったのが、「ちょっと待って！これはここ数年私が教えてきたことじゃないか！」かつての二大帝国が、また世界制覇を狙っているのです。私が驚いたのは、この二つの国がイスラエルの最大の敵になる可能性があることを、軍の諜報部員が探知したということです。預言を追っている皆さんならきっと、「ロシアはどうなの？」と思っていることでしょう。ゴグ、マゴグ、エゼキエル 38～39 といえば、プーチンがマゴグの地のゴグ、大首長ではないのか？それが攻撃を指揮するんじゃないのか？その通りです。しかし、この時点では、

① プーチンは自分がそうすることを知らない。

② イスラエルもプーチンがそうすることを知らない。

なぜなら、彼自身がこれから何をするのか、分かっていないのですから！ここで我々に分かっているのは、イランとトルコはそれを行いたいと心底思っている、ということです。分かりやすく言えば、イランもトルコも、イスラエルを殲滅するため、イスラエルを破壊したいのです。イスラエルが標的なのではなく、イスラエルは特定のイスラムの世界制覇のための手段に過ぎません。シーア派？それともスンニ派？イランは、シーア派イスラムが世界を支配することを狙っており、そうあるべきだと彼らは信じています。そして、トルコはスンニ派イスラム界のリーダーとして復活し、その地位をサウジアラビアから取り戻したいのです。第一次世界大戦までは、カリフの座はトルコにあったのです。オスマン帝国はスンニ派界のリーダーとして、カリフの地位にいたのです。彼らはそれを取り戻したいのです。エルドアンはスルタン（皇帝）になりたいのです。ただの民主国家の大統領ではなく。彼にとって民主主義は、いずれ彼がスルタンになるための手段に過ぎないのです。彼は自分がスルタンようになって、自分の国の地位を政治的にだけでなく、宗教的にも復興させたいのです。これを理解しておくのはとても重要なことです。イランもトルコも、イスラエルを攻撃しますが、それはやがてイスラムを世界中に拡散するための手段なのです。イスラム界にとってイスラエルは、のどに引っかかった骨のようなものです。ロシアの関心事は、原油価格が下落するに従ってずっと下がり続けていて、昨日も今日もまた下がりました。それが大問題で、彼らの経済は火だるま状態です。ロシア経済の 60～70%は、石油とガスに依存しています。ですから、イスラエルが地中海で発見した石油とガスは、いずれロシアの顎にかけられる鉤となり、イスラエルを攻め込ませることになるでしょう。その時、イランとトルコの寄生虫がそれを利用して、自分たちの計画を達成するために、ロシアという巨大な熊に便乗するのです。それと覚えておくべきは、今現在のロシアは、これらの件に関してどちらの味方にもついていないということです。実際、昨日ネタニヤフがプ

ーチンのところへ行った時、面白いことにプーチンは笑顔でネタニヤフにこう言いました。

「ほぼ毎月のように、あなたが私のところに何度も訪ねて来られ、共に全ての事を話し合っ、お互いの国が協調し合うのはこれまでになかったことで、このような関係でいられることを、私は非常にうれしく思っています。」

なぜプーチンはそんなことを言ったのでしょうか？イスラエルの最大の味方は、アメリカです。ここ8年間は、イスラエルはオバマによって蔑ろにされ、特にオバマが指揮したイラン協議では、中東においてとてつもない危険に晒されました。しかし、トランプがホワイトハウス入りした今、プーチンは確証の道を探っているのです。イスラエルがアメリカと親しくなれば、——プーチンは全世界に見せつけたいのです。

「ちょっと待て。イスラエルは私の同盟国だ。中東に関しては、彼らは**私**のところに協調を求めてやって来る。」

「イランやその他の要素について、中東でのことは、私にアドバイスと援助を求めてやって来るのだ。」

「だから私たちの中で直接つながりが持てることを、非常に喜んでいるのだ。」

彼にとってそれは確証であり、光栄なことであって、彼がアメリカと同じレベルで関われることを誇っているのです。

理解すべきは、トランプ大統領はここ数日の間に、シリアに地上軍を送り込みました。ISISのシリアの首都、ラッカで戦うためです。シリア内戦のこの5年間、オバマは地上軍をシリアやあの地域に送る事をずっと拒んできました。そして、面白いことに、プーチンはアメリカがどんどん関わってくる様子を目にした時、

「ちょっと待て。中東は私が握っているんだ。ここで何かをするのなら、私を通してもらおう。」

総括して、これらの事にたくさんのエゴが絡んでいて、彼抜きでは、ネタニヤフ首相はこんな些細なことでもトランプとプーチンを結び付けるものとなり、両国ともが良好な関係を持つことを狙っているのです。とてもとても興味深いことです。なぜなら、現在ロシアは、我々を必要とする限り、我々と良好な関係を保つでしょう。しかし、私が情報源から聞いた話は、会談は上手く行ったようですが、イスラエルがシリアからの攻撃に即座に反応し、さらには反撃していることが、ロシアには理解に苦しむ事だったようです。しかも、流れ弾のようなものに対してまでも、どうしてイスラエルは即座に報復するのだろうか？と。同時にロシアが言ったのは、

「全ての事が我々と調整されるなら、イスラエルが必要な措置をとることを、我々は許可する。シリアでの武器庫を、ヒズボラや他のテロ組織の手に渡る前に破壊することも認めよう。」ということで要点は、マゴグの大首長であるゴグは、まだイスラエルに背を向けて敵対するまでには至っていません。それは、今はまだ我々の側につくことが自身の利益だと、彼が考えているからです。しかしながら、トランプが実質的に兵士を中東に送り込むだけでなく、道徳的、霊的、政治的にイスラエルを支援し、中東に関わるのを見れば見るほど、プーチンはイスラエルに対して、「どちらの味方だ？」と尋ねるでしょう。そして、イスラエルがどちらかの側についたときに、プーチンは動き出すと思います。ガスや原油価格の下落で、彼がどれほどそれを必要としているかを理解するなら、——彼には前進することに何の問題も躊躇もありません。そして、イランとトルコは、それに便乗して同じことをするのです。

皆さん、シリアはもはや、私たちが心配するほどの国でもなければ、危惧するような政権でもありません。我々が危惧しているのは、シリアにおけるイランとトルコの関与で、両国ともすでにイスラエル国境まで来ています。私はいつも言うのですが、テロ組織はただの起爆剤でしかありません。中東を支配するというよりも、行程を早めるだけです。「イスラエルに攻め込む」と聖書の中に記述のある独立国家は、ペルシャ、ゴメル、トガルマ、クシュ、プテ。これらは独立国家で、テロ組織ではありません。だから ISIS の存在は、イランのシリア入りや、トルコのシリア入りを促進させ、早めるだけであって、ISIS がイスラエルを破滅させるために攻めて来ることはありません。それは大きな軍と超高精度な武器を所有した独立国家です。

プーチンとネタニヤフの会談は、とても面白いものでした。

① 確認問題。

② とても重要な事。皆さんもご存知ですね。ロシアにとって、シーア派 vs スンニ派、イスラエル vs パレスチナ問題など、どうでも良いことが明らかになりました。彼らがすべき事は、自分たちの利益追求だけだと理解したのです。

そして、彼らの利益、それが何であれイスラエルが所有しているものが持って行かれそうになった瞬間、自分たちが攻め込み、略奪しなければならないと判断した際には、彼らはためらうことなくそれを行うでしょう。前にも言いましたが、イザヤ書 17 章で預言されているダマスカスの崩壊が、着火点となると私は思います。

ということで、ここまでイランがシリアの土地深くに旗を設置したことについておはなししました。つまり、彼らが海軍基地を設置し、イスラエルがそれに反対しているということです。それを阻止するために、ネタニヤフがはるばるプーチンのところにまで会いに行きました。それから、イランがさらに弾道ミサイルの実験を行い、協議違反している件についてもお話ししました。でも今は、違うことについてお話ししたいと思います。おそらく皆さんはご存じないでしょう。現在トルコ政権が引き起こし、ヨーロッパで起こっていることです。

皆さんは理解しなくてはなりません。現在、トルコとドイツとの間で、言葉による戦争が起こっています。全ては、ディ・ヴェルトという新聞社の一人のジャーナリストから始まりました。ちなみに、ここは親イスラエル派の新聞社です。彼がトルコによって逮捕され、それにドイツのアンゲラ・メルケル首相が激怒して、その逮捕に口撃しました。そしてエルドアンは直ちに「これはドイツのスパイだ」と言い、その全てが真の問題に向かっています。真の問題とは、4月16日にエルドアンは国民投票を行います。そして、その国民投票の中で、彼はトルコでの議会制民主主義に代えて大統領支配へと全制度を変更しようとしているのです。基本的に彼は独裁者となり、議会から権力を完全に奪い、全権力を大統領に与えるのです。大まかに言えば、彼が現代のスルタンになるということです。彼はそれを4月16日にしますが、その準備に、何百万人もトルコ人が、ドイツやオーストリア、オランダ、ベルギー、スカンジナビア、その他の西ヨーロッパに住んでいることを知ったうえで、彼が何をしたかという、これらの国で集会を始めたのです。これらの国で、時に30万人もの集会を行ったのです。そこで、これらの国々はそれを禁止しました。ふらっとドイツの町に現れて、トルコにいる大統領のための選挙集会を行うなんて

できません。彼はドイツ国籍を持つ 140 万人のトルコ系ドイツ人、オーストリアに住む 30 万人のトルコ人を利用し、——他にもまだまだありますが、基本的に西ヨーロッパはエルドアンに対して憤慨しているのです。しかしながらこれには問題があって、彼らはエルドアンに対して憤慨し、多くの事に対して非難することは出来るが、実際には、彼らは彼の事をとても必要だということを、エルドアンは知っているのです。彼らにとって、彼が必要な理由は、エルドアンだけが唯一、難民の西欧大量流入を止めることが出来るからです。彼が望むなら、彼には止めることが出来るのです。事実、難民についてお話しすると、ここ 2 か月、今年の 1 月、2 月の間に彼らがエルドアンと結んだ恥ずべき合意によって、西ヨーロッパ入りした難民は 2,400 人だけでした。そして、13,000 人がイタリアに行きました。イタリアはこの同意に加わらなかったからです。ですから、エルドアンが基本的に述べているのは、

「もし、私の要求を呑むなら、私はこれを止めよう。しかし私の要求を呑まないなら、国境を開放して彼らを流入させる」

ということです。そして、とても興味深いのは、ヨーロッパがこれをとても恐れているということです。皆さん、西欧では今現在起こっていることに関して、大きな不安が広がっています。それからトルコはイスラム聖職者をドイツ、オーストリア、スイスの国内でスパイとして使っているということです。そして、これら全ての事が DITIBDT と呼ばれる、トルコ政府に所属する組織の事務所から出ています。その代理機関を通して、トルコはドイツのモスク創設に資金提供をし、イマーム（イスラム指導者）とトルコに忠誠を尽くし、ドイツ国籍を所有し、ドイツ国内に居住する 80 万人のトルコ人の面倒を見ているのです。理解すべきは、現在ドイツ全土に約 900 軒のモスクが建っており、その数はどんどん増加しています。この代理機関は 1984 年に創設され、エルドアンが始めたものではありませんが、エルドアンはスパイ行為を隠すためにこれを利用しています。実際、このスパイ行為はドイツに限らず、オーストリア、スイス、ベルギー、オランダを含むその他の 30 か国でも行われています。トルコはイスラム聖職者を使って、彼らの仕事をさせています。彼らを自分たちの住む国に同化させないだけでなく、トルコに忠誠を誓わせるように導き、さらには、というより何よりも、そこで聞くことを全てエルドアン大統領に報告させるためです。これらイマームの内の何人かは、ドイツによって逮捕されています。そして彼らは、政府の宗教課である遥かに巨大な組織に属していることがわかったのです。トルコには国内に 86,760 軒のモスクが建っていますが、全てが政府内のこの特定の組織の支配下にあります。エルドアンはこれらの人間を使って、ヨーロッパ中に手を伸ばそうとしているのは明らかで、これがヨーロッパではまさに爆発寸前なのです。ヨーロッパはもはや、エルドアンもトルコも EU のメンバーだとは見ていません。現在、トルコがどんどんロシアと親密になり、自身をヨーロッパから疎外し、緊張が高まっているのはとても興味深いことです。そしてその緊張が、西欧全土で始まる選挙に影響を与えます。ヨーロッパはこれらの事に関して興味はありませんが、ヨーロッパ人、少なくともヨーロッパの政府はこれを非常に恐れています。

もう一つお伝えしたいのは、私を含めて、イスラエル人はこれから数週間、西ヨーロッパに渡航しないようにと警告を受けました。実際、私は身の危険があったので、4 月上旬に予定されていたフランス講演をキャンセルしなければなりませんでした。イスラエルの諜報機関は、私にだけでなく、全般的な ISIS のテロ計画がヨーロッパに戻って来ているという情報を探知しました。ヨーロッパで何か大きなことをするためだけでなく、彼らの会話から我々が探知したのは、彼らは化学物質を含んだ汚染爆弾のような

ものを企んでいるということです。言っておきます。イスラエル人は西ヨーロッパの人気観光地の人混みには近づかないようにと警告を受けています。ですから、皆さんにも言っておきますが、イースターの期間中、人混みを避けてください。このような非常に切迫した脅威が迫っていますから。今夜このエルサレムからのメッセージを通して真に伝えたいのは、イランとトルコが自分たちの大きな目標を邪魔する者に対して企んでいること、イスラエルもその中に入っているのは明白ですが。つまりそれは、イスラムの全世界制覇。しかし、「彼らの」イスラムです。つまり、イランはシーア派を、トルコはスンニ派を求めているのです。いずれ、エゼキエルが預言した通り、彼らはイスラエルの山々に来たとき、敗北するのです。ということで、イスラムが世界制覇する大きな企みは大惨事に終わり、私が思うに、イスラムはエゼキエルのイスラエルの山で敗北するのです。それによって、これらの事で飽和状態にある西ヨーロッパが、平和をもたらす世界的指導者を生み出すのでしょうか。私はこれまで何度も何度も…言ってきましたが、世界はイスラムを恐れ、そしてウンザリしているのです。ですから、世界がイスラムに世界的指導者を求めるようなことはありません。ユダヤ人、西欧人、アメリカ人、アジア人でさえ、絶対にしません。全世界がイスラムテロの問題を抱えているのです。全世界がイスラム教から原理派が起こるのを恐れているのです。だから、人々がそれをすると、それに従うとも思えません。西ヨーロッパが神を排除し、完全にキリストを排除し、一方では恐れ、もう一方ではニューエイジや悪魔崇拝が行われているのを見えています。だから私は、世界のあの部分がいずれ新たに形作られ、反キリストを生み出す地となると思っています。

ということで、皆さん全員にお勧めします。全てが起こっていることには理由があって、ある一定の期間にだけ起こっているのです。1, 2年前にここまで確信をもって話すことは出来ませんでした。と言っても、聖書預言の教えを言っているわけではありませんよ。聖書預言はイランやトルコについてずっと言い続けてきましたから。そうではなく、イランやトルコに関して、政治や軍事、諜報機関が、「この二つの国が最大の脅威」だとか、「イスラエルの国境まで来ている」などと話しました。しかし、様々な事が物凄いペースで、驚愕の速さで起こっているのです。ロシアの熊が、いずれイスラエルに足を踏み入れ、それに付随する寄生虫イランとトルコは、自分たちのイスラムを拡散させるという野望を果たすためにやって来ます。イスラムは敗北し、反キリストが西ヨーロッパから登場します。

皆さん、神の民には恐れはありません。理解しておいてください。神がそのご計画を私たちに伝えてくださったのです。神が初めから終わりについて告げられたのは、私たちが怖がらせるためではなく、備えさせるためです。私たちにとって死は何の意味も持たず、私たちにとっては、生きるもキリスト、死ぬことは益（ピリピ 1:21）。私たちは自分がどこに行くのかを、知っているのですから。でも、私から皆さんにお聞きしたいのは、「あなたは、自分がどこへ行くのか知っていますか？」この世は、これからますます混乱に陥りますが、同時に、神はあなたが理解しておくことを望んでおられると、理解していますか？それは、神が人の心を知っておられ、神は世界の指導者たちの心を知っておられるからです。神は、今日、あなたの人生の中で主を堪能してほしいだけではなく、神があなたに約束されていることを、理解していますか？この世の人生だけでなく、永遠のいのちです。神はこの大混乱の中で、あなたが、人のすべての考えにまさる神の平安の中にいるだけではなく、あなたが出て行って、人のすべての考えにまさる神の平安、つまりキリストにある信仰を、人々に与えるようにと願っておられるのを理解していますか？

世界は混乱に陥り、助けと希望を求めているのです。そしてその希望は、世界の指導者たちや、軍隊や、国会や、経済からは与えられるものではないのです。物事はばらばらに崩れ落ちているのではなく、物事は然るべきところに収まって行っているのです。そして、私たちの仕事は、これから起こることを世界に知らせることです。私たちの仕事は、沈黙することではありません。私たちはラッパであり、ラッパを吹く者なのです。私たちは城壁の見張り番であり、ラッパとは、私たちが持っているメッセージです。そしてもし、ラッパがあやふやな音を出したなら、人はどのようにして戦いに備えるでしょうか。これから来ることに、誰が備えられるでしょうか。これら、世界で起こっている全ての事において、ロシア、ヨーロッパ、イラン、トルコ、イスラエルで起こっていることを通して、——皆さん、全員に言います。今こそ、福音を宣べ伝える時です。自分の人生を修正し、主との関係を修正するなら、今がその時です。神は、あなたが恐れの中を歩むのではなく、勝利の中を歩んでほしいと願っておられます。神は、あなたが恥じ入らず、権威をもって歩んでほしいと願っておられます。神は、あなたに初めから終わりを知っていてほしいと願っておられます。主が、それを宣言されたのですから。

エルサレムより、皆さんに愛を送ります。ユダヤ人の皆さんには、プリムのお祝いを申し上げます。プリムには意味があることを覚えていますか？神は私たちを、攻撃や絶滅が襲う前に、私たちが出て行き、すべき事を行うことを許可されるのです。エステル記 8 章で、神がどのようにアハシュエロス王を用いられたか、そしてなぜ、ユダヤ民族がそれほど喜んだのかを見ましたね。それは彼らが、自分たちを殺そうとした敵に反撃する機会を得、報復する用意が出来ていたからです。これは悲しいことですよ。神が、私たちの敵を打ち倒すことを許可されたのです。でも、私たちにはもう、その必要はないのです。神が、私たちをこの地に戻され、神ご自身が私たちを回復させてくださり、私たちを養い、守ってくださるのですから。

#### 4 見よ。イスラエルを守る方は、まどろむこともなく、眠ることもない。

(詩篇 121:4)

どうかイスラエル国家のため、イスラエルの人々のため、イスラエルの救いのためにお祈りください。金曜日の夜、エルサレムより皆さんに、シャバット・シャローム！

I love you!

もう一度言いますが、このメッセージを You Tube でご覧ください。フォローしてください。何よりも、シェアしてください。

God bless you all from Jerusalem!

Shalom!

Good-bye!

---

このメッセージは BEHOLD ISRAEL のイスラエル在住メシニックジュー Amir Tsarfati 氏が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、BEHOLD ISRAEL (英語)、「DIVINE US」(日本語)を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさ



んの為にも、お祈りください。

---

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by MIHO